

国語部会	学校名	ひたちなか市立那珂湊第三小学校
	職・氏名	教諭 飯村 真由美

研究テーマ	豊かなかかわりの中で、自分の思いや考えを表現できる児童の育成 ～交流学习を通して、「対話力」を育てる言語活動の充実～
-------	---

I 研究テーマについて

本年度より、学習指導要領が全面実施された。平成20年中央教育審議会答申では、「言語は知的活動(論理や思考)の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心をはぐくむ上でも、言語に関する能力を高めていくことが重要である」としている。このような観点から、今回の学習指導要領改訂では、言語に関する能力の育成を重視し、各教科において言語活動を充実することが課題となっている。

各教科等においては、国語科で培った能力を基本に、それぞれの教科等の目標を実現する手立てとして、知的活動(論理や思考)やコミュニケーションや感性・情緒の基盤といった言語の役割を踏まえて、言語活動を充実させる必要がある。

特別活動では、学級活動等の各活動や学校行事にも目標が示され、共通する語句として「望ましい人間関係」「自主的・実践的な態度」が挙げられた。これらの力を育成するために、「コミュニケーションや感性・情緒の基盤」としての言語が果たす役割は大きいと考える。「言葉で伝える力」「自分の思いや考えを豊かに表現できる力」を高めることは、国語科の目標として位置づけられている。また、集団として自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる特別活動は、まさに、国語科で育てた言葉で伝え合う力を発揮する実践の場として捉えることができる。つまり、国語科をはじめ各教科等で育てた知識や技能を、特別活動の様々な実践の場で活用することが一層求められている。

したがって本研究は、自分の思いや考えを豊かに表現し、伝え合うための基盤となる表現力・理解力を国語科の学習を中心にしっかりと培い、特別活動の学習の場で実践的に高めていこうとすることをねらいとしている。

本校の児童は、「話すこと・聞くこと」に関しては、自分の思いや考えを伝えることを苦手としている児童が多い。そこで、互いの立場を尊重する力を育てる意味から相手と直接向き合って、話をしていく対話を大切にしていきたいと考えた。「対話」とは、共通の目的をもって対峙したもの同士が、「言葉」を媒介にしてお互いの思いや考えを伝え合いながら、共通の理解を築いていくことである。その「対話」を通して、自分の見方や考え方の深まりや広がりが見られたり、自分と違う他者の見方や考え方が分かったりすることで、自己表現力・他者理解・人間関係構築力という「自分の思いや考えを表現できる力」を育成していくことができると考え本主題を設定した。

【参考資料1 研究全体構想図】

II 実践事例1：読むことにおける交流学习

第2学年1組国語科学習指導案

指導者 飯村 真由美

1 単元名 お話を読んで、大好きな場面をしょうかいしよう 「スイミー」

【参考資料2：教材分析の観点】

2 単元の目標

- 自分の大好きな本の特徴に気付き、選んだ場面に対する思いが伝わるように、本の楽しさを共有しながら紹介しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 好きな物語を様々に読んだ上で、紹介したい本や文章を選んでいる。(読むこと)
- 物語の好きなどころについて、自分の知識や経験、読書体験と関わらせながら読み、本についての自分の思いを絵カードにまとめて、紹介している。(読むこと)
- 文末の表現に注意して、敬体で書かれた文章に読み慣れている。(言語についての知識・理解・技能)

【参考資料3：指導事項マトリックス】

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の大好きな本の特徴に気付き、選んだ場面に対する思いが伝わるように、本の楽しさを共有しながら紹介しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな物語を様々に読んだ上で、紹介したい本や文章を選んでいる。</li> <li>・物語の好きなどころについて、自分の知識や経験、読書体験とを結びつけて紹介している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文末の表現に注意して、敬体で書かれた文章に読み慣れている。</li> </ul>

4 単元設定にあたって

これまでに児童は、第1学年において、「くじらぐも」「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の単元において、音読をしたり、登場人物にお手紙を書いたり、大好きな本の紹介活動を学習している。「たぬきの糸車」では、セリフを考えたり、絵に描いたりする活動を行っている。また、第2学年においては、「ふきのとう」の単元において、人物を中心に役に分かれて、工夫して音読する学習を行ってきた。場面の様子を考えながら、人物の気持ちを想像し、音読することで想像を広げながら読むことへの基礎を養ってきている。そこで、本単元においては学習指導要領解説・国語編の「第1学年及び2学年」「C 読むこと」の指導事項「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」を取り上げ、主人公である「スイミー」の行動を通して、物語の展開をとらえ、スイミーの目を通して見る場面の様子を豊かに想像させながら、読む活動につなげていきたいと考える。また、この作品表現の特徴でもある「比喩」「倒置」にも気づかせたい。比喩や倒置を使うことで、情景や様子が生き生きと伝わることをしっかりと味わわせたい。また、好きなところを紹介する交流活動においては、好きなところやおもしろいと思ったところを書き抜き、どうしてそう思ったのかその理由を明確にしなが、読みを深めるために書く活動の指導にもあたっていきたい。

本学級の児童（男19名、女20名、計39名）は、アンケートによる意識調査によると、「読書がすき」と答えた児童は、96%である。毎日の読書タイムや国語の時間における読み聞かせなど、読書活動が、児童の生活に密着しており、本に親しむ環境ができていているものととらえられる。また、「どんな本がすきですか。」という質問に関しては、「お話の本」（物語文）や「図鑑」などが多く挙げられた。また、児童の読書カードの分類調査からも、同様の結果が出ている。想像を膨らませる物語は、児童の心をとらえているものと感ずる。

指導にあたっては、「スイミー」の学習を通して、表現技法による場面の様子やスイミーの心情変化を一元化してとらえ、スイミーの行動から知恵と勇気を発揮することやみんなで力を合わせることの素晴らしさを読み取らせていきたい。そして、「スイミー」の「どの場面が一番心に残ったか。」を考えながら、「心に残った文や文章」を書き抜く活動を行っていききたい。そして、発展学習としてレオ＝レオニの作品を読み、自分の一番好きな場面を選びながら、好きな言葉や文を書き抜き、本の小箱作りを行っていききたい。この「本の小箱」には、心にとまった言葉や文をたくさん入れ、最後に友だちに紹介するという交流活動を通して、今後の読書意欲の向上を図っていききたい。

5 指導と評価の計画（12時間）

次時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
第一次 1 ・ 2 ・ 3	1 今まで読んできた本を持ち寄って、好きな本の題名を中心に紹介する。  2 教師の本の紹介を聞き、本の小箱を作って、お気に入りの本を紹介しようという学習のめあてをもつ。  3 本の小箱作りを文章と照らし合わせながら確かめる。	○ 今までの読書経験を生かして、事前に紹介したい本を選んでおくようにしておく。 ○ どの児童にも活動のイメージがもてるように、教師のモデルを示しておく。  ○ 文章と照らし合わせながら、カード作りの視点を確かめる。	【関】好きな本を選んで、紹介することができる。 [活動の様子]  【関】本単元の学習のめあてや活動の見通しを立てることができる。 [活動の様子、発言]  【読】文章と照らし合わせながら、カードを作る視点がわかる。[活動の様子、発言]
第二次 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	4 教材文「スイミー」の読み聞かせを聞き、一番好きな場面を紹介しあう。  5～7 「スイミー」の場面の様子や登場人物の行動を読み取り、スイミーの心情や気持ちを想像する。  8 お話を再読しながら、小箱に入れるカードを作る。	○ 全文を読み、今までの経験を生かして「スイミー」の一番好きな場面を選び、紹介できるようにする。  ○ 「スイミー」の場面を読み取り、スイミーの心情や気持ちを想像することができるように、表現に着目させる。  ○ 物語を再読しながら、小箱に入れるカードを観点に沿って考え、書くことができるようにする。	【読】「スイミー」の一番好きな場面を選ぶことができる。[ワークシート]  【読】「スイミー」の場面を読み取り、スイミーの心情や気持ちを想像することができる。 [発言の様子・ノート]  【読】物語を再読しながら、小箱に入れるカードを観点に沿って考え、書くことができる。[絵カード]
第三次 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 本時	9～10 自分のお気に入りの本を選び、前時までの学習を生かして、本の小箱を作る。  11～12 自分が作った本の小箱を提示しながら、本の紹介をする。	○ 自分のお気に入りの本を選び、本の小箱を作ることができるように、前時の学習を想起させる。  ○ 自分が作った本の小箱を提示しながら、本の紹介をすることができるようにする。	【読】自分のお気に入りの本を選び、本の小箱を作ることができる [活動の様子・作品]  【関】自分が作った本の小箱を提示しながら、本の紹介をすることができる。 [活動の様子・作品]

6 本時の展開

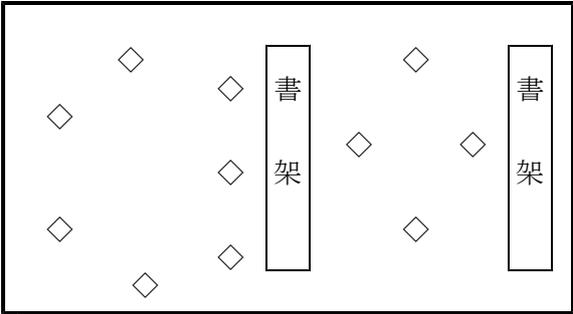
(1) 目標

- 自分の大好きな本の特徴に気付き、選んだ場面に対する思いが伝わるように、本の楽しさを共有しながら紹介しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 物語の好きなどころについて、自分の知識や経験、読書体験と関わらせながら読み、本についての自分の思いを絵カードにまとめて、紹介している。(読むこと)

(2) 準備・資料

- ・本の小箱 ・お気に入りの本 ・大好きな本の紹介カード ・自己評価カード ・座席表
- ・観点別評価チェックカード(教師用)

(3) 展開

学習内容・活動	支援の手だて(○全体・個人)と評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。【一斉】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本の小ばこを友だちにしようかいしよう。</p> </div> <p>2 紹介の仕方について、確認をする。【一斉】</p> <p>(1) 4人組のグループになり、紹介したい本と本の小箱を見せながら、本の紹介をする。</p> <p>(2) グループでの紹介が終わったら、本を読み合う。</p> <p>(3) 読んだ感想を「感想の言葉」を使って、相手に伝える。</p> <p>(4) グループでの紹介が終わったら、メンバーをチェンジする。</p> <p>3 本の小箱を使って、お気に入りの本の好きな言葉や文を紹介する。【グループ】</p> <p>ア オープンスペースでグループでの聞き合い学習を行う。◇=お話ブース</p> <p>イ グループで紹介し、次の場所へ移動する。</p> <p>ウ お話ブースの場の設定</p> <p>&lt;生活科図書室&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">  </div>	<p>○ 今までの活動の総まとめであることを知らせる。楽しく活動ができ、夏休みへの読書活動への誘いとなるような活動になるような雰囲気作りをする。</p> <p>○ 交流活動の時間が十分確保できるように、紹介の仕方が分かるように黒板に明示しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の進め方が、よくわからない児童には、個別に指示をしておく。</li> </ul> <p>○ 音声言語での活動となるため、グループでの活動になることを知らせる。事前にグループは、指示しておく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1～5班 図書室の前方 6～10班 図書室の後方</p> </div> <p>○ 発表には、原稿を用意させているが、コミュニケーション活動であることに鑑み、なるべくみないで紹介できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <p>自分の大好きな本の特徴に気付き、選んだ場面に対する思いが伝わるように、本の楽しさを共有しながら紹介しようとしている。(活動の様子)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本の楽しさを共有しながら紹介している児童には、更に友だちの本の楽しさを感じとれるように、支援する。(Aに対する手立て)</li> <li>・自分の本の紹介がうまくできない児童には、一番大好きなカードを読んで伝えるよう助言する。(Cに対する手立て)</li> </ul> <p>○ 交流活動のはじめと終わりは、必ず挨拶ができるようにする。</p> <p>はじめ「お話をきいてください。よろしくお願ひします。」</p> <p>終わり「お話を聞いてくれて、ありがとうございます。ありがとうございました。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介時間が5分間であるため、カードを紹介する順番を、あらかじめ決めておくように助言する。</li> </ul> <p>○ 紹介が途中になった場合は、あとで本の小箱を教室に掲示するので、それを見合うことを知らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">&lt;読むこと&gt;</p> <p>物語の好きなどころについて、自分の知識や経験、読書体験と関わらせながら読み、本についての自分の思いを絵カードにまとめて、紹介している。(本の小箱・絵カード)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介の仕方がうまくできない児童には、ワークシートを見ながら、順番に絵カードを紹介</li> </ul>

- 4 本の小箱での紹介活動で思ったことをふりかえりカードに書く。
- ・観点を明示しておき、その観点での自己評価と友だちの紹介についての評価(相互)も行う。

- するように助言する。(Cに対する手立て)
- ・自分の思いを適切に紹介できている児童には、全体の場で紹介し、交流活動のモデルとして称賛する。(Aに対する手立て)
  - 今日の活動をふり返り、自己評価を観点に沿って行う。ペアで聞いた友だちにもよかった点が相互評価できるようにしておく。
  - ・文章で書くことのできる児童には、文章で表記しておくことを知らせる。

7【参考資料 活動の様子等】

(1) 児童が作った「本の小箱」



(4) 紹介する内容をまとめたワークシート

<自己評価カード>

おともだちの名前		おともだちの本のこぼこのよかったところ		おともだちの本のこぼこのよかったところ		おともだちの名前		おともだちの本のこぼこのよかったところ		おともだちの本のこぼこのよかったところ	
よかったです		こぼこがはきはきして見えました。		よかったです		よかったです		よかったです		よかったです	
本を見せるのがよかったです。		ほこを見せ話をよかったです。		本を見せるのがよかったです。		本を見せるのがよかったです。		ほこを見せ話をよかったです。		本を見せるのがよかったです。	
かんそう		かんそう		かんそう		かんそう		かんそう		かんそう	
だいたいすきなところ		だいたいすきなところ		だいたいすきなところ		だいたいすきなところ		だいたいすきなところ		だいたいすきなところ	
じこひようかカード		じこひようかカード		じこひようかカード		じこひようかカード		じこひようかカード		じこひようかカード	
本のこぼこをともだちにしようかいしよう。		本のこぼこをともだちにしようかいしよう。		本のこぼこをともだちにしようかいしよう。		本のこぼこをともだちにしようかいしよう。		本のこぼこをともだちにしようかいしよう。		本のこぼこをともだちにしようかいしよう。	
二年名前( )		二年名前( )		二年名前( )		二年名前( )		二年名前( )		二年名前( )	

8 成果と課題

(1) 成果

- ・普段の読書活動や国語の学習の中で、児童相互の読み聞かせを実施してきた。大好きな絵本を1冊選定し、文章を暗記して友だちに読んであげるといった活動を通して、本を読むことが大好きな児童が増え、楽しんで読書活動に取り組んでいる。この実践を通して、「自分のお気に入りの文や言葉」をたくさん見つけることができた。
- ・「本の小箱」作りは、登場人物の絵カードやペープサート、あらすじ、お気に入りの文やことばを書き抜くなど、本を何度も繰り返し読むことで、自分の読みを形成することができていた。

- ・「本の小箱」に入れるものを作ることは、物語の基本構造をおさえながら読むことにつなげることができた。特に2年生であらすじをまとめることは難しい活動とは思われたが、物語の山場（おもしろいところ）をおさえながら、表記することができていた。活動場面で、友だち同士で「あらすじって何書くの?」「あらすじってね。おはなしのおもしろいところをかんたんにとまとめて書くんだよ。」と教え合っている姿が多く見られた。
- ・紹介活動を通して、いろいろな本のよさを感じることができた。また、児童相互のコミュニケーションも深まり、「〇〇ちゃんの本を読みたいです。」といった感想が多く聞かれた。
- ・普段の教室空間とは違い、オープンスペースでの活動は楽しい雰囲気となった。周囲には、たくさんの本があり、その後の読書活動もいろんな本を手にして読むことができていた。

## (2) 課題

- ・全体的に楽しんで活動していたが、表現力(文章や絵)の差が見られた。特に、ワークシートのお気に入りのところのわけを書く部分では、うまく理由を文章化できない子がいた。
- ・発表の場面では、ワークシートをたどたどしく読む子もいた。対話力育成・コミュニケーション能力の育成という点でも、自分の言葉で相手を意識して伝える機会を設定していきたいと感じた。
- ・紹介の後に感想を伝える場面では、感想用語をもう少し意識させたかった。どうしても「発表の声の大きさや話し方」に意識が向いてしまった。感想の観点を明示する必要性があった。
- ・学級の人が多いため、グループ活動(3~4人)となってしまった。全体での共有の場や上手に紹介している児童のモデルを紹介する時間が必要だった。
- ・交流学习としての効果はあったが、プレゼンテーション(友だちに伝えるためには、どのように表現したらよいか)を少しずつ意識して、活動できるようにしていきたい。
- ・できた作品を見合い、相互評価する時間の確保ができなかった。